

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

4月19日に、本校3年生130名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を見た調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の生徒たちの状況をお伝えします。

## 【総合結果（国語・数学）】

国語A・B、数学A・Bともに本校は京都市平均を上回っています。数値を見る限りでは、昨年度と同様に概ね良好な結果が得られました。全国的な調査結果の傾向は、過去と同様、平均正答率は、基礎的知識を問うA問題よりも知識の活用力を見るB問題が低く、依然として活用に課題がありました。

各教科別に、詳しく分析した結果を以下に紹介させていただきます。お子様のアドバイスにも、ぜひご活用ください。

	国語A（知識）	国語B（活用）	数学A（知識）	数学B（活用）
全国	75. 6	66. 5	62. 2	44. 1
京都府	75. 8	67. 2	63. 3	45. 0
京都市	75. 9	67. 8	63. 4	45. 6

## 【国語】

国語Aにおいて、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の領域別正答率は全て京都府平均・全国平均を大きく上回った。特に「書く能力」については、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く、根拠を明確にして書くといった力が身についているように思われる。

しかし、「言語についての知識・理解・技能」が全国平均より上回っているとはいえ、『独創的』の書き取りの正答率が低く、漢字を正確に書く力はまだ十分とは言えない。

また、「手塩にかける」や「白羽の矢が立つ」といった慣用句について、理解が不十分である。

国語Bにおいても「書く能力」「読む能力」の領域別正答率が京都府平均・全国平均を上回った。中でも、「複数の資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」という趣旨の問題は正答率が全国平均を大きく上回っており、日常の授業の中での取り組みが結果として表ってきたよう思う。

しかし、難易度の高い「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」といった課題解決能力を必要とする問題については、十分な記述ができていない。

今後、授業あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると思われる。

### 【課題克服の取り組み】

- ① 学校で学ぶ漢字を含む、常用漢字の反復学習。（言語の知識）
- ② 国語科だけでなく、あらゆる機会に（道徳や他教科においても）感想文やレポートなどを書く活動に取り組む。（書く）
- ③ 教科書以外の文章（新聞記事等）を進んで読み、要点を抜き出したり、まとめたりする。（読む）
- ④ 自分の意見を「話す・書く」課題のなかで、適切な言葉が使えるよう語彙を増やす。（言語の知識）
- ⑤ 多様な文章に触れ、感想を人に伝えたり、内容を要約したりする。（読む）
- ⑥ 自分の考えを述べる際、相手により伝わる語彙を選択し、構成を考える。（話す）

## 【数学】

数学Aについて「数学的な技能」、「数量や図形などについての知識・理解」の領域別正答率はどちらも京都府・全国平均を上回っている。特に「関数」に関しては、全国平均を大きく上回っている。苦手な分野ではあったが課題克服のための演習問題を繰り返し行った結果が出たと思われる。また、以前からの課題であった「資料の活用」に関しても京都府・全国平均ともに正答率が上回っている。このことから、現在学習している単元に加えて、日頃から定期的に繰り返し反復練習していくことが必要であると考えられる。

数学Bについては、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」の領域別正答率は、京都府・全国平均をどちらも上回っている。詳しくみていくと、どの領域の正答率も全国平均よりも大きく上回っていて、少しずつではあるが応用力も身に附いている。しかし、「図形」の領域では、平均正答率は50%未満であり内容を理解しているとはいえない。日頃の授業より、積極的に説明活動をさらに取り入れていかなければならないと考えられる。

### 【課題克服の取組】

- ① 徹底した基礎基本の定着（計算）
- ② 数学用語を正確に理解し適切に使うことができ、アクティブ・ラーニングをさらに活性化し、ディープ・ラーニングを取り組んでいく
- ③ 図形の領域では、問題文を整理し、筋道を立てて答えを導き出す
- ④ 発展的な問題を演習する

## 【生徒質問紙調査より】

生活習慣に関する質問（朝食・起床時間）については、どちらも京都府・全国平均を下回っている。しっかりとした生活習慣が身についているとはいえない。朝食をしっかりとることが健康面にも影響をおよぼす。また、規則正しい生活をすることが学校生活を安定して過ごすことにつながるので、朝に余裕を持って過ごせるように起床時間を考えることが必要である。

規範意識に関する質問については、京都府・全国平均を上回っており、規範意識は身についているが、さらに規範意識を向上させるための取り組みをおこなっていく必要がある。しかし、キャリア教育や自尊感情に関する質問「将来の夢や目標を持っていますか」、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」においては、全国平均を下回っている。自分自身に自信を持てていないため、挑戦することをあきらめ、将来の夢や目標もまだ考えられていない現状である。そのため、学習面や学校行事等で少しずつ自分自身に自信を持てるように、積み重ねていく取組が必要である。

## 【全体を通した本校の成果と課題】

全国調査より、各教科とも京都府・全国平均より上回り、良好な結果が得られています。その要因として考えられるのが、生徒質問用紙より家庭学習ができていることがわかりました。しかし、自主的に家庭学習ができているかというと、そうではなく、与えられた宿題をやっているだけという現状です。今後の課題としては、どのようにすれば弱点克服につながるか等を自ら考えることが必要になってきます。つまり、自主学習です。自ら考えることができるように、授業も工夫し、ただ聞くだけではなく、自ら考え、自らのことばで伝えるということも行っています。このことは、生徒質問紙からも生徒に浸透していることはわかります。自ら考えて切り拓く力をつけることで、自分に自信を持ち、夢や目標が持てるにつながります。その力をつけるためには、基本的な生活習慣を定着させ、学習面を充実させていくことが大切だと考えています。

